

むらがるプロジェクト有志企画

# 「まめってえ鬼無里視察旅行」 活動報告書



日にち：令和4年11月26～27日

行先：長野県長野市鬼無里地区

参加者：16名（大人9名＋運転手、子ども6名）

「地域を面白がる」をテーマに活動してきた「むらがるプロジェクト」。

その中で「こんなことやりたいね〜」と話してきたことの数々をすでに実現している団体が長野市鬼無里地区(旧鬼無里村)にあった！しかも、人口規模は泰阜村と同じか更に少ない規模だ。…ということで、早速「NPO 法人まめってえ鬼無里」へ視察に行き、これからの参考にしたい。また、視察旅行を通して、参加者の交流を深めたい。と有志で「まめってえ鬼無里視察研修旅行」へ行ってきました。

泰阜村でも今後生かせそうなことがたくさんありました。学んできたことをまとめておき、報告したいと思います。

## <日程>

11月26日(土)

8:30 泰阜村 発

11:00 日暮し庵(長野インター近く)着 昼食 12:00 頃発

13:30 鬼無里散策

ボランティアガイドさんに案内していただきながら、鬼無里を散策しました。

◎フットパスを歩く組…「町かどコース」

◎バスで回る組…「谷の都コース」と白髭神社と億裾花ダム周辺

16:30 野生酵母パンソノマノ立寄り

17:30 宿泊先 着 18:30 食事・懇親会 21:00~就寝

11月27日(日)

7:00~8:30 朝食 9:00 宿泊先発

9:30 まめってえ鬼無里の方に案内していただき見学しました。

- ・ 「鬼無里の湯」薪ボイラー見学 ※移動中にえごまの畑が見れました。
- ・ 鬼無里薪ステーション視察
- ・ 鬼無里太陽光発電所視察
- ・ 改修中の古民家見学

11:30 えごま油づくりの説明(そば処鬼無里にて)

意見交換

12:30 昼食(そば処鬼無里) 13:30 鬼無里 発 17:30 泰阜村 着

## <鬼無里について>

旧上水内郡鬼無里村 → 平成17年 長野市と合併

- ・ 総面積 135 km<sup>2</sup> (全体の85~90%が山林)
- ・ 人口 約1200人 高齢化率(65歳以上) 59%
- ・ 小学生18人(複式学級) 中学生11人 保育園11人(条例で10未満は保育園となってしまう)
- ・ 50年前までは、林業と麻栽培が主産業。現在、主産業はない。
- ・ 部活動顧問は教員とは別。部活は近くの学校と共同で行っている。
- ・ 学校統合の話もあり、みんな決めかねている。PTAと子どもたちの意見を尊重しながら相談中。
- ・ 鬼無里村が長野市と合併した際、住民説明会だけだった。(小川村や泰阜村は住民投票をした。) 住民が意見を言える場もなく決まった合併は良くなかった。

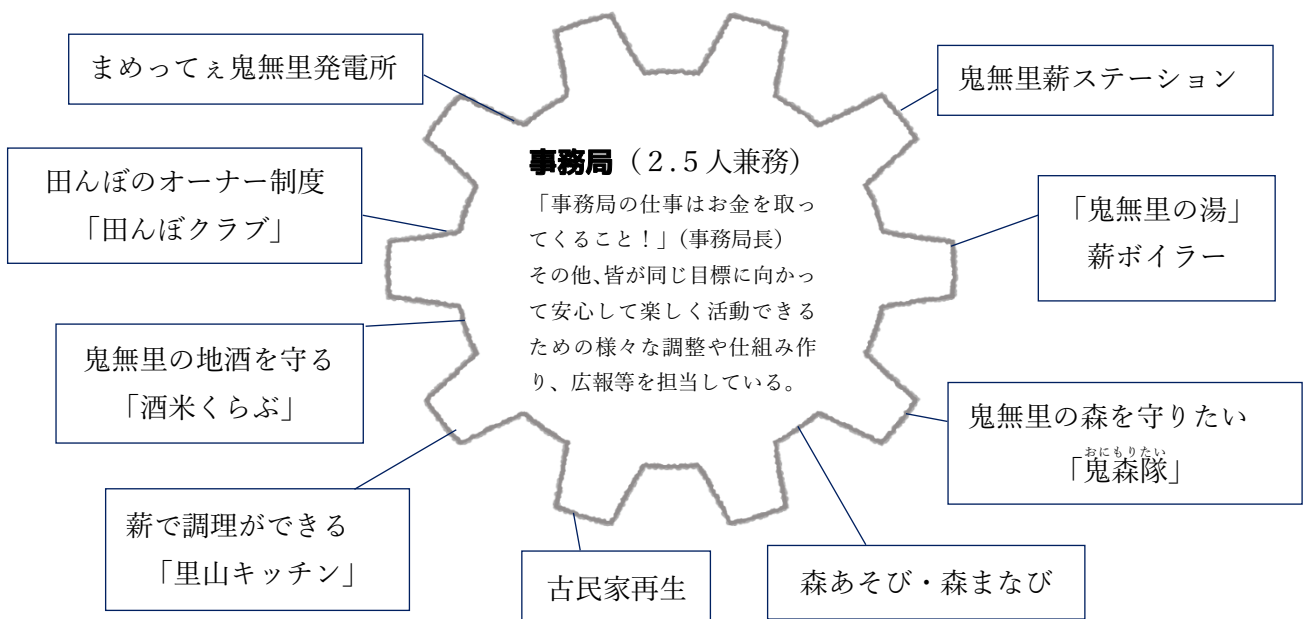
## <NPO 法人まめっえ鬼無里について>

里地里山ならではの豊かな暮らし「食とエネルギーが自給できる地域を目指して」をコンセプトに様々な活動している。

活動を通して、「**自然環境に特化した地域づくり**」「**食とエネルギーの自給による自立した地域づくり**」を行っている。

まめっえ鬼無里は、このコンセプトに沿って様々な活動している。その中心を担っているのが事務局。研修ではその内のお2人に案内していただいたが、お2人とも他の仕事も掛け持ちで事務局を回されているとのこと。これまでの立ち上げに伴うご苦勞の数々、実際の活動の様子を伺うと、とても片手間でできる内容ではなくびっくり！

◎ まめっえ鬼無里のイメージ図（小黑作：お話や資料を元に）



※ それぞれの活動には、核となる方がいて、それぞれに活動している。事務局は、それらの活動が安心して楽しく活動できるための様々なサポートや、同じ目標に向かうための仕組みづくり等、歯車の役割を担っている。

※ **会員 140名** (最初の理事長の繋がり。関東圏の方が多い。)

会費：年間5,000円、賛助会員3000円…60万円(事務所維持費として活用)

※ 最初はお米体験と森ガールから始まった。小水力発電は難しかった(お金、環境負荷)。理事がお金を出して組合を作り、NPOに引き継いだ。

※ えごま油づくりは鬼無里地区住民自治協議会、フットパス・ボランティアガイドは鬼無里観光振興会が行っています。

まめっぺえ鬼無里の活動の一部を紹介します。

◎ **まめっぺえ鬼無里発電所（太陽光）** 2015年6月完成

- ・ 敷地面積 1,104 m<sup>2</sup>
- ・ 設備容量 42.5 kW パネル枚数 198 枚
- ・ 年間発電量 50,000 kWh
- ・ 売電収入 約 200 万円/年 （買取価格 36 円/kWh、20 年契約、固定価格買取制度、中電に売電）
- ・ 総事業費 1,300 万円（全額市民出資）



**設置まで**

<特徴>

- ・ パネル角度 45 度、高さ 1.5m（手探りで雪に耐え得る角度を試した。）
- ・ 架台は、地域の人たちが単管パイプで作った。
- ・ 草対策でヤギを飼っている。（冬場は理事のお家で暮らしている。）

<苦勞・工夫>

- ・ 元々信州ネットで勤めていた O さんは、上田や佐久と協力して事業展開する案を提案したが、地元の人たちからは、「鬼無里だけでやらないと意味がない！」と、地域の人々の自立、独立した地域を目指す理想とはかけ離れたものだったため没となった。

- しかし、それまでの熱意が伝わり、その後地域の方々も積極的に議論に参加するようになった。
- 架台は、雪に耐えられるよう頑丈に頑丈にと考えていた。そうすると値段も高く、修理が難しい。
- 地元の人達で単管パイプで作ってみた。自分たちで作るので安く作れ、自分たちで修理ができる。
- ・長野市は農地転用が難しかった。（2015年）

#### <費用について>

- ・総事業費 1300 万円は、「おひさま進歩エネルギー株式会社」を通じて、全国から市民出資という形で資金調達した。発電所の売電収入から 19 年かけて元本と利息分を全国の出資者の方に戻す。
- ・2035 年に固定価格買取制度終了する。まだ今後の事は決めていないが廃棄料金は確保済み。
- ・返金代、固定資産税、まめってえ鬼無里管理費、やぎ代がかかる。
- ・ビジネス的には返済とトントンだが見学に来たお客様で助かっている。ドイツからのお客様も来たことがある。

#### その他

- ・非常用の携帯電話の充電場所も設置。
- ・近くに葡萄畑作る予定（ワイン用葡萄）
- ・近くの山に、子どもの遊べる場所つくる予定。



## ◎ 鬼無里薪ステーション



- ・ 始めは、冬の仕事としてはじまる。その頃は、100 立米も作っていなかった。
- ・ 2017 年 県の補助金でラック・屋根・巻き割り機・チェーンソーなどを購入。仕組みづくりをした。
- ・ 薪の価格（薪ストーブユーザー向け）  
針葉樹：20,000 円／立米    広葉樹：25,000 円／立米    ナラ：28,000 円／立米

### 現在

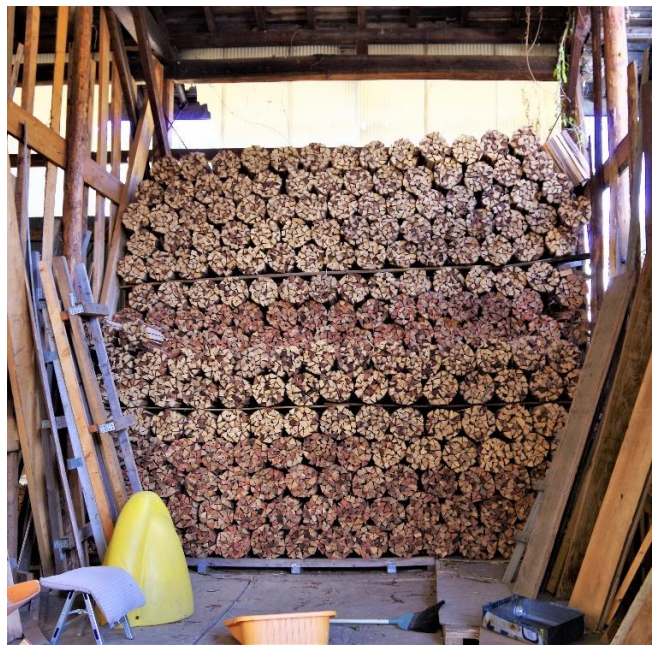
- ・ 薪の量…300 立米／年間
- ・ 売上げ…500 万円／年間（人件費や燃料代ととんとん。メンテナンス代等かかるのでもう少し余裕が欲しい。）
- ・ 働いている人…定年した人 3 名（週 4・5 日勤務）  
うち 2 名は、技術がある人。1 名は木を切る講習会を受ける。  
80 代の専門家から学んでいる。
- ・ 販売先…鬼無里の湯（針葉樹、長さ 40 cm）※割は良くないが、販売先の確保・広報としての役割もある。  
キャンプ場（まっすぐのもの。キャンプ向けは杉薪でも問題ない。1 束 400 円じゃないと合わない。最初は 200 円を出してしまったが…。冬の間は、キャンプ場の薪づくりを行う。）  
薪ストーブ使用者（広葉樹）※野生酵母パンソノマノなど
- ・ 薪の出所
  - ・ 支障木…山林じゃないところに売れるだろうと植えられた杉→依頼があると切りに行く。
  - ・ 切った木を持ってきてもらう→買い取る。

## 課題

- ・ キャンプブームで需要増加。薪は作れば作るほど売れるが、切り手に限度がある。（薪ストーブ需要だけで年間300万円くらい）人手と設備が不足している。担い手を増やしたい。
  - 鬼無里以外からも来てくれる人を増やしている。（「空いていればくるよ」という人が15名程いる。）
  - 鬼無里の森を整備するボランティアの会「鬼森隊」が木を切る講習会を実施。
- ※ 学生の体験会ではあまり定着しなかった。鬼無里が好きな人は定着しやすい傾向にある。

## 他の地域の取り組み

- ・ ディーエルディー（伊那市高遠）
  - …全国展開している大規模な取り組み。林福連携化、薪の配達を女性が担う等注目されている。
- ・ 小川村…機械化されている。
- ・ 鬼無里…ほとんど手作業。乾燥にはこだわっている。燃え方が違い、評判が良い。
- ・ 薪用針金は飯田市にある会社がトップメーカー。



## ◎ 「鬼無里の湯」（長野市の施設）薪ボイラー

### <特徴>

- ・ 総事業費 5,000 万円（県の補助金を活用）
- ・ 国産の薪ボイラー

### <設置までの苦勞>

- ・ 4年間かけて長野市に陳情（地域の仕事創出。地域の資源を地域で回す。）
- ・ 長野市が大宮の会社に指定管理委託。（大宮の会社は薪ボイラーにあまり関心を持たれていない。）
- ・ 長野市は、売買契約は民・民でという方針。



### <契約内容（まめってえ鬼無里と大宮の会社）>

- ① 量…100～150 立米／年間（年間取引量が、決まっています、そこまでいかなければ保障有。）
- ② 値段…20 円／kg（最初は、長野市の言い値で 15 円／kg→20 円／kg に変更）
- ③ 残水量…25%以下（半年以上乾燥）

※ 11,000 円／立米くらい。一般ユーザーには倍くらいの値段で販売している。赤字だが、針葉樹（カラマツ・杉）をうまく消費している。実績や広報としての役割も担っている。





## ◎ 改修中の古民家（築 100 年くらい）

### <無償譲渡>

- ・ 持ち主から無償譲渡（解体には 800 万くらいかかる。売りに出すが売れず。持ち主と税務署へ行き評価額確認したが、ほとんどゼロに近かったので譲渡益なしと判断された。）

### <あるものを活用して、自分たちの手で…>

- ・ 森林組合の方の倉庫にブナのフローリング材があったので、改修に活用。
- ・ 改修は、縁のある信州大学工学部の先生の監修のもと、地元の若い大工さんが一緒に行っている。
- ・ 床材を入れると段違いに暖かい。上座式と下座式のみ断熱。断熱工事は現在一区画。補助金が出たら行う予定。
- ・ デザインは、まめってえ鬼無里の O さんと Y さんでアイデアを出し、旦那さんが図面を書いている。（電気工事ができ、キャドが使える。）



### <施設の目的>

- ・ 『ひみつの隠れ家』
  - ・ 本棚を置きたい。
  - ・ 月 1 回居酒屋をしたい。（宿泊業はハードル高いので飲み場にする。）
  - ・ 一般開放はしない。



## <鬼無里でのその他の取り組み>

### ◎ えごま油（鬼無里地区住民自治協議会（事務局長吉田さん）、きらめき鬼無里）

<はじまり>

- ・ 長野市の事業…住民自治区（32区）で1支所1モデル事業（3年だけの事業）が始まり。（うまかったのは、鬼無里だけかも？）
- ・ 鬼無里は昔からえごまを作って、薬味として使われていた。



<現状>

- ・ きらめき鬼無里では、油を作って売るところまで。搾油は、そば処鬼無里で行っている。搾油代が高いが丁寧。濾過、通常は1回のところ10回行うので透明度高い。
- ・ 1本1,950円で400~500本販売。事業ベースには乗っていない。（加工賃1,000円、有償ボランティア）

<魅力>

- ・ えごまは、毎日小さじ1/2飲むと健康に良い。健康食品として使っていただきたいという願いから、酸化を防いで使いきれぬ量で販売している。
- ・ パッケージデザイン賞受賞（長野市のデザイナー作）

### ◎ フットパス・ボランティアガイド（鬼無里観光振興会）

\*フットパスとは…地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】のことです。イギリス発祥で、日本でも各地域の特徴を活かしたフットパスが整備されてきています。（鬼無里HPより）

鬼無里のいろいろなところに、フットパスの地図が置いてあった。

見所の書かれた地図を見ながら、いつでも誰でもウォークラリーのように鬼無里を巡ることができる。



H29年に「鬼無里フットパスコースづくりワークショップ」で地域のみんなで作ったそう。



子どもたちも、地図を見ながら「今どこだ!？」と楽しんで歩いていた。

ボランティアガイドをお願いすることもでき、説明を聞きながら歩いた。ガイドさんは、すごく詳しくて熱く色々なことを教えてくださった。温かな人柄と熱意にみんな引き込まれ、更に鬼無里を満喫。

◎ **田んぼくらぶ**

年間2万円。20組くらいが登録。

◎ **酒米クラブ**

20年前に発足。年間1万円。永井酒造(群馬県川場村)の酒蔵に売っている。夏晩酌セットが届く。

◎ **鬼無里隊** (鬼無里の森を整備する森林ボランティアの会)

山仕事の心得から、チェーンソーの安全な使い方まで、林業のプロから学べる講習会を実施。

◎ **旧中学校**

維持管理費は長野市。活用方法を模索中。



## <参加者の感想>

### 鬼無里研修旅行の記録

N.M.

泰阜村と同規模の地域でありながら、少ないマンパワーで多くの事業に取り組んでおり、大変な感銘を受けました。少しお話を伺った程度ですが、中心となって活動されていらっしゃる方(Oさん、Yさんなど)の発想力、行動力、そして地元の方々を巻き込む凄まじい牽引力をひしひしと感じました。また、事業立ち上げについてノウハウが蓄積されていることを垣間見ました。(組合を作る、NPOへの引き継ぎなど)地元の方々との信頼関係のなせる技でしょうか？

一方で、これだけ様々な取り組みを一生懸命行なっている鬼無里でも、少子化は止まらないと伺い、すこし無力感に苛まれました。泰阜村と鬼無里を比較すると人口規模こそ似ていますが、歴史(豪族の納めた地、交通の要所、祭屋台、鬼女紅葉伝説)や観光資源(水芭蕉の群生地、フォッサマグナによる複雑な地層地形など)の面では敵わないなと思いました。しかしマンパワーの面では泰阜村も負けていないと思います。パワフルな方々、技術を持った方々、地元愛の溢れる方々と、負けないメンツが揃っていると思います。

今回の研修旅行で得たエネルギーをバネに、次のステップへ進めたらと思います。

### 印象的だったこと箇条書き

M.O.

- ・ 薪ボイラー導入に4年かかった。かじかの湯でも薪を、と検討されたがコスト高で見送ったと聞いたことがある。単体では確かに難しいかもしれないが、まめってえの活動のように、仕組みがあれば可能では。
- ・ 資料館の展示 麻栽培 産業があるところに人は集まる。和合の炭焼き。
- ・ 資料館の職員の熱心さ、受付のスタッフも事務的でない。ガイドさんの人柄。
- ・ ソーラーパネル 儲けようとしてやるならやらないほうが、と言われたことがあるがなるほど。
- ・ 食糧とエネルギーの自活が地域の独立。先見の明だと思う。楽しくなくては続かない、も。
- ・ 合併するべきでなかった。
- ・ Sさん、Mさんの質問のおかげで、話が深まった。
- ・ バスツアー

白鬚神社 室町時代の建造でから本殿が、保護のためにモダンな建物内に保存され、保護されていた。歴史遺産を大切にしている様子。至る所に紅葉の立て看板 観光振興会が設置した第三セクターかどうかわからないが、鬼無里をもりあげようという試みがうまくつながり、ビジターにとって心地よい。



## アイデアとエネルギーをフルチャージ！の鬼無里視察

H.S.

あれもこれも、私たちがやってみたいことを既に色々やっていてスゴイ！というのが最初の感想でした。ですが話を伺い、紆余曲折ありながらも諦めずに挑戦し続けている信念と、“楽しもう”というスタンスがあるからこそ、疲弊せず続けられているのだなと実感しました。また、長野市に合併したことによる様々な苦勞を聞くにつけ、今の村の環境の素晴らしさ、ありがたさに改めて気づかされました。そして今回の何よりの収穫は、地域の様々な立場の皆さんと一緒に視察に行けたこと。これからどんなことができるのか？“はばき脱ぎ”してワクワクしながら一緒に考えていきたいと思います！こんな機会をくれたメンバーに、支援して下さった村に感謝！

## 持続可能な活動

Y.T.

鬼無里は地区全体で地域活性の方向性が統一されているような感じが特に印象的だった。自分たちの歴史に自信と誇りを持って活動されている様子が、対応くださった鬼無里のどの方からも伝わってきた。地域活性を持続可能なものにするために、ビジネスの手法を取り入れている部分は大いに学ぶべき姿勢と感じた。「主要なインターから約40分の山の中」という条件は泰阜も鬼無里も同じ。泰阜でもやれることがまだまだありますね。



宿泊した宿—EN—。鬼無里のいたるところに入口のようなポスターやパンフレットがあった。デザイン等からも地区全体で方向性をもって取り組んでいることが伝わってくる。

## 地域への愛情・将来への夢 仲間と創る「今」を楽しむ

A.O.

- ・ ホームページ、パンフレット、ポスター、フットパス、民話、メディアの活用…。見せ方がうまいな～と思います。視察旅行の準備の段階から、ホームページやパンフレット等を見れば見るほど鬼無里が魅力的に見え、楽しみになってきました。それらがバラバラではなく、統一性やつながりもあります。どなたが中心となって進めているのでしょうか。センスと鬼無里への愛情を感じます。泰阜村と似たような環境、似たような規模の地域。参考にしたいです。
- ・ 何十年も先を見据えて、環境（山・エネルギー・食料等）・地域の持続可能な方法を考え、地域全体で取り組んでいる様子を実際に見聞きすることができ、「すごいな～」とすごく感心しました。
- ・ 販路の開拓、良いものへのこだわり、労働に見合った値段設定等、長く続く良い事業となっていくためのこだわりと夢をもって日々取り組まれていることが印象的でした。
- ・ 泰阜村でも同じようにできたら…と思いますが、いくつもハードルがあります。まめってえ鬼無里を中心に回していらっしゃるSさんとOさん。本当にすごいな～と思います。やはりそういう人が必要です。泰阜村でやるとしたら、その役割を誰が担うか…。すぐに収入が見込めるものではないので、他の仕事で収入を得ながら、みんなで少しずつ力を出し合っ…というのが現実的なところでしょうか。画期的な良い案がないかな～。
- ・ 薪スタンド、あんじゃね自然学校、グリーンレンジャー等、泰阜村でもすでに様々な取り組みがあります。それらの取り組みを見える化し、その内容やそれをやっている人たちの思いを知り、一緒になって「あんじゃねえ泰阜（笑）」をつくっていけると良いのではないのでしょうか。コミュニティスクールの村づくりバージョンのイメージです。
- ・ 私が特に気になっているのは、山の整備です。山の整備をできる村民が激減してしまう日はそう遠くないでしょう。今のうちに私たちも森の手入れの方法や、自然とともに生きる術を先輩方から学び、木が循環していく仕組みを作っていくことが必要ではないかと常々感じています。
- ・ フットパスマップもつくりたいです。いつでも誰でも村の散策を楽しめるように。ボランティアガイドの方の詳しい説明、あたたかな人柄もうれしかったです。

### <研修旅行について>

- ・ 時間が限られていたこともあり、鬼無里内の見学がメインの会となりました。それはそれで鬼無里を満喫でき良かったのですが、宿泊先が分かれてしまったり、お風呂に交代で入浴したり等で、ゆっくり話す時間がなかなか取れなかったのが少し残念でした。もう少しゆっくり話せる時間があるとよかったですな…と思います。
- ・ 全員での集合写真をとれなかったことも反省です。うっかりしていてごめんなさい。
- ・ 他地区の取り組み・人々から刺激を受け、アイデアをもらい、思いをもった仲間と一緒に時間を過ごせる…。次へのエネルギーの源となる研修旅行はやっぱり良いなと思いました。またやりたいです！（1・2年に1回できるといいなあ～。）

## 「まめってえ鬼無里」研修に参加して

K.S.

自分の都合で往復道中ご一緒できなくて申し訳なく思っています。車中での雑談の中にも有意義な話題も出たことと思います。

日頃なかなか話す機会のない方と意見交換出来、距離感が縮まったことが良かったと思います。

鬼無里では、まず「むら」の歴史の深さに感動しました。謡曲「鬼女紅葉」の話は多少知識がありましたが、神輿の屋台の彫刻、宿泊した古民家の造り、見学した神社それぞれに由緒があり、神楽殿が併設されており、鬼無里がその昔かなり裕福であったことを伺い知ることが出来ました。

また、御案内下さった説明員の方の態度にも感心させられました。例えば、見学した各神社の歴史、由来等、全て暗記されていて、資料も見ず説明されたこと、泰阜村のことも前もって勉強されていて、その配慮には感服いたしました。

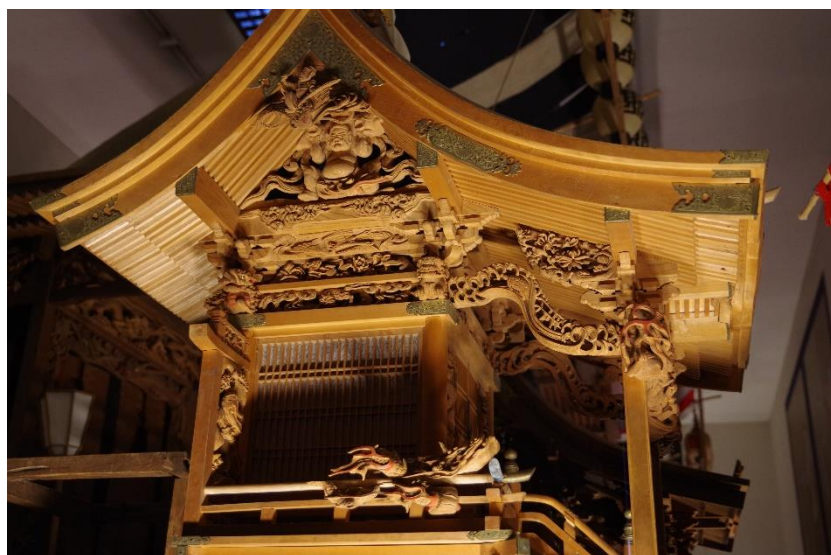
「まめってえ鬼無里」のメンバーの取り組みには、従来の慣習にとらわれない発想豊かさに取り組む姿勢に情熱を感じました。

「むら」の特徴を生かし、価値を見出し、決めたことに対し諦めずに取り組んでいるエネルギーを感じてきました。

別行動でしたが、その日、高山温泉郷に宿泊し、温泉に浸り、心配りの行き届いた料理を堪能し、翌日須坂の田中本店、小布施町を見学して帰りました。

鬼無里の神輿、古民家、神社、田中本店の着物展、小布施の葛飾北斎記念館、それぞれ当時の「裕さ」の中に生まれた文化を感じて帰りました。

語り尽くせません。「脛巾脱ぎ」楽しみにしています。



※ 「まめってえ鬼無里」の組織づくりがすごいと思いました。理事長や担当理事はどのようになっているのでしょうか。NPO 法人ということでしたが、NPO 法人のメリットがあるのではないかと、どのような組織になっているのか、どうやって回っているのか等知りたいです。

## 「村」を維持していくことの大切さ

Y.M.

「まめってえ鬼無里」の皆さんが「様々な取り組みをやろうとした時に規制があり、長野市になったことにより本当に苦労した。」とおっしゃっていました。泰阜村は、今、村として残っていますが、今後を見据える時、あらためて村を維持していく大切さをすごく感じました。

鬼無里のお年寄りの方々が、体が動く限りキャリアを生かしてできる事を行い、認め合えていることが素晴らしくいいなあと思いました。例えば、道の駅では、86才と84才の方が、自分達が畑で丹精込めて作った根菜類等をおられ、その顔と表情は自信に満ちていました。腰を丸めながらも買い求めたくなるような説明をしてくださり、つい沢山買って帰りました。

長年の智恵を出し合い「年金+α」、労がお金にかわるのもうれしい事です。そこに活動への評価があり、活動力がみなぎっていました。お年寄りの活力を引き出し、存在感を尊重している点、満足感と共に活動に参画できている点、この取り組みを事業化している点について時間をかけて学びたいと思いました。

今、国は、地域を大切にしようという流れになっています。地域を生かそうとしている皆さんが何かをしようとすると、続けるという難しさ、ボランティアだけでは無理がある現状を感じています。提案や取り組みへの評価があって欲しいと感じます。今回の研修の旅が活動のエネルギーのきっかけになったように思い、是非深めていければと思います。

今回参加させていただき、何か一歩踏み出す勇気の研修の旅となり、本当に良かったです。お世話様になりました。

